

2019年11月10日(日)朝10:10～
11月第2共同主日礼拝式説教

主の降誕前第7、役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**恐れるな**(31節)

聖書:マタイ 10章26～31節

<口語訳>

新約聖書15～16頁

マタイ 10章26～31節

<新共同訳>

新約聖書18～ 頁

マタイ 10章26～31節

<新改訳第3版>

新約聖書18～19頁

マタイ 10章26～31節

<塚本訳>

新約聖書95～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。

◇本日の**マタイ1:26～31**は、**神の御子イエス・キリスト様**とともに**天の御国の福音**を宣べ伝える弟子たちが、「**迫害**」によるいのちの危険を覚悟で生きるよう励ましておられる箇所です。

⇒「**恐れるな**」と、主は、3回も仰せで(26、28、31)、「**迫害**」が、主とともに生きる時には、避けることができない事柄であることを示しておられます。

⇒特に、28節、31節では、主とともに生きる者への主の愛が溢れていて、それなくてもよいことには、恐れず、真に恐れなければならないのは、「**魂も体も地獄(ゲヘナ)で滅ぼすことのできる方**」(28)であると、仰せです。

⇒最初の恐れは、心配や不安、思い煩い等から来るもので、後者は、畏敬・**神礼拝の心**です。

本論；

◇本日、**マタイ書10章26～31節**から主の**使信**に**思い・心**vousをとめます。

◆**マタイ10章26～31節**；使徒**マタイ**は、**天の国・神との和解**を宣べ伝える使命には、「**迫害**」が伴いますから、12使徒たちには、「**魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方**(28節)」を恐れ、**礼拝の心**を求めておられると主は語っておられます。

◇**26～31節**；塚本訳◆**恐れずに説け**

「26 だから彼らを恐れるな、(すべてはじきに明らかになるであろう。)覆われているものであらわされないものではなく、隠れているもので(人に)知られないものはないからである。

27 わたしが暗闇で(こっそり)話すことを、(大胆に)明るみで言え。耳うちされたことを屋根の上で宣伝せよ。

28 体を殺しても、魂を殺すことの出来ない者を恐れることはない。ただ、魂も体も地獄で滅ぼすことの出来るお方を恐れよ。

29 雀は二羽一アサリオン(三十円)で売って

いるではないか。しかしその一羽でも、あなた達の父上のお許しなしには地に落ちないのである。

30 ことにあなた達は、髪の毛までも一本一本数えられている。

31 だから恐れることはない。多くの雀よりもあなた達は大切である。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**26～28節**；「だから彼らを恐れるな」、「(すべてはじきに明らかになるであろう。)覆われているものであらわされないものではなく、隠れているもので(人に)知られないものはないからである(26)」、「わたしが暗闇で(こっそり)話すことを、(大胆に)明るみで言え」、「耳うちされたことを屋根の上で宣伝せよ(27)」、「体を殺しても、魂を殺すことの出来ない者を恐れることはない」、「ただ、魂も体も地獄で滅ぼすことの出来るお方を恐れよ(28)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、28節で、本音をあかしておられ、「**ただ、魂も体も地獄で滅ぼすことの出来るお方を恐れよ**」。

⇒地上の法廷で、罪を認め、「**神の御子イエス・キリスト様**」から、罪の赦しを宣告された者を、天の大法廷でも、無罪を宣言して下さいます。

⇒それが、「**御子イエス・キリスト様**」が、ヘブル書で、「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを見捨てない」と、ヘブル書の記者を通して、宣言された意図です。

⇒「だから彼らを恐れるな(26)」の「**だから**」は、その前の25節で、「家の主人(たるわたし)が(悪鬼の頭)**ベルゼブル**と(悪口を)言われたのだから、その家族(たるあなた達)はなおさらのことである」と、語られたことばを受けています。「**御子イエス・キリスト様**」が、「**ベルゼブル**」、すなわち、「**バアル・ゼブル**」、「**偶像神バアルの頭ゼブル**」だと、非難されたことを受けてのことです。

⇒謂れのない暴言や悪口で苦しめられることは、「**御子イエス・キリスト様**」が、受けられたことであり、当然のように行動をともにしている弟子たちも、非難中傷を受けるという「**だから**」です。

⇒**27節**で「わたしが暗闇で(こっそり)話すことを、(大胆に)明るみで言え」と言われます。

- ⇒「**明るみで言え**」は、「宣言せよ」という意味で、心が感動したことや確信したことや喜びに感じてことは、口に出して話したくなるから、素直に言いなさいという主の励ましです、強制命令ではありません。
- ⇒口語訳や新改訳2017は、「言い広めなさい」と、訳しています。
- ⇒「体を殺しても、魂を殺すことの出来ない者を恐れることはない」とか、「ただ、魂も体も地獄で滅ぼすことの出来るお方を恐れよ」のことで、殉教が推奨されているように感じますが、決してそうではなく、覚悟を問うておられるのです。
- ⇒肉体の死を人は強要できますが、人は魂・人の心を殺すことはできません。それは、**神**に於いても同じです。
- ⇒併し、**神**は、魂を「地獄(ゲヘナ)」に投げ入れることはおできになります。魂が生きたまま苦しむところです。「黄泉・陰府」は、すべての死者が集められるところと言われますが、地獄は、一度投げ込まれると再びそこを脱出できないのです。

◇**26～31節**；「雀は二羽一アサリオン(三十円)で売っているではないか。しかしその一羽でも、あなた達の父上のお許しなしには地に落ちないのである」、「ことにあなた達は、髪の毛までも一本一本数えられている」、「だから恐れることはない」、「多くの雀よりもあなた達は大切である」、「**神の御子イエス・キリスト様**」は、「多くの雀よりもあなた達は大切である」を鍵のことばにしておられます。

⇒「雀」は、最も小さく価値も低いということを譬えで語り、人間の価値評価を皮肉っておられます。

⇒逆に、主は、人間の評価の低い、「雀」1羽、「髪」1本を大切にされるように、主の弟子たちを大切にしておられると、語っておられます。

⇒「アサリオン」は、1日の労賃デナリの16分の1の価値の貨幣です。雀は2羽で1アサリオンとして売買する慣習でした。1日の労賃を仮に1万円とすれば、2アサリオンで1250円になります。

⇒人間も、唯の物質と見れば、その価値以下ですが、いのちの価値はそれと異なります。

⇒「**神の御子イエス・キリスト様**」は、町々村々で福音を宣べ伝え、失われたイスラエルの羊を集め、収穫するために、「**12使徒の派遣**」をされました。

⇒併し、福音は、喜びの知らせですから、喜びのない宣教は想像できません。喜びも、苦勞のないものではなく、苦勞を惜しまないほど、生甲斐に充ちたものであるはずです。

⇒**神**への祈りと信仰なしにはできないことですが、人間の側にも、喜びだけでなく、肉体の死をもって、福音に生きることもあるのです。

⇒Iコリント書15:54の「死は勝利に飲まれた」人生も、あるのです。悔いを残す死は、福音の死ではありません。

⇒パウロのように、福音を宣べ伝える者が高ぶらないための杭もあるのです。私も、脳梗塞の後遺症で右手右足が自由にならないため、行動が制限されています。

⇒併し、左手左足が強くなりました。また、私が説教と祈りしかできなくなっただけのため、多くの兄弟姉が奉仕を引き受けて下さっています。1つの体である教会は、足りないところを満たす。

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。

◇本日の**マタイ1:26～31**は、**神の御子イエス・キリスト様**とともに**天の御国の福音**を宣べ伝える弟子たちが、「**迫害**」によるいのちの危険を覚悟で生きるよう励ましておられる箇所です。

⇒「**恐れるな**」と、主は、3回も仰せで(26、28、31)、「**迫害**」が、主とともに生きる時には、避けることができない事柄であることを示しておられます。

⇒特に、28節、31節では、主とともに生きる者への主の愛が溢れていて、それなくてもよいことには、恐れず、真に恐れなければならないのは、「**魂も体も地獄(ゲヘナ)**で滅ぼすことのできる方」(28)であると、仰せです。

⇒最初の恐れは、心配や不安、思い煩い等から来るもので、後者は、畏敬・**神礼拝の心**です。

⇒「**12使徒の派遣**」は、「**迫害**」を避けられません。

⇒御子イエス・キリスト様は、弟子は師のようになれば、十分だと言われました。主も、十字架の上で、苦しまれ、血の汗を流されました。殉教の死は、準備してできるものではありません。イサクをモリヤの山で犠牲としてささげようとしたアブラハムは、息子イサクがいけにえはどこですかとの問いに答えられませんでした。

⇒自己矛盾があっても、アブラハムは、主に従い、主の山に備えあり、主のみことばの通り、藪に角を掛けていたお羊をイサクの代わりに犠牲とすることが赦されたのです。

⇒**ヨハネ6:19、20**；

19 彼らは二十五か三十スタデオ〔五キロか六キロ〕ばかり漕ぎ出したとき、イエスが(あとから)湖の上を歩いて舟に近づいてこられるのを見て、こわくなった。

20 イエスが言われる、「わたした、こわがることはない。」